

平成29年度「留辺薬まちづくり協議会」(第7回)会議録要旨

◎ 日時	開催日時 平成29年9月21日(木) 18:00~20:02
◎ 場所	留辺薬町公民館 1階 小ホール
◎ 出席者	協議会: 12名(横田会長、稲村副会長、荒委員、石田委員、大江委員、菊池委員、坂口委員、高野委員、立垣委員、千田委員、野瀬委員、古川委員) 北見市: 五十嵐自治区長 安井留辺薬教育事務所長 近井留辺薬総合支所 主幹 鎌田留辺薬総合支所 産業課長 事務局: 飯塚留辺薬総合支所長 奥原留辺薬総合支所 総務課長 今野留辺薬総合支所 総務課地域振興係長 村田留辺薬総合支所 総務課地域振興係 傍聴者: 3名

開 会

- 事務局 (総務課長) 開 会(18:00)
それでは、皆さんお晩でございます。定刻の時間になりましたので、ただいまから、第7回留辺薬まちづくり協議会を開催いたします。
開催にあたりまして、横田会長からご挨拶をいただきます。
- 横田会長
お晩でございます。朝晩が大変寒い時期になりました。
皆さん健康には留意してもらいたいなと思っております。
先般、19日ですか、長寿を祝う会に社協の副会長という立場で出席させていただきましたが、内容を変更した直後にしては、大成功だったのではないかと思います。
北見については、台風18号の関係で式典が取りやめになったという報告もされておりました。
今日は、答申に向けての関係で議論をしていただきますが、ここに盛り込まれた内容については、すでに目を通していただいていると思いますので、考えや意見等を今日すべて出していただいて、答申書をまとめて行きたいと思っておりますので、よろしく願います。

ますことをご報告申し上げます。

なお、武田委員、山梨委員、山久委員におかれましては、所用により欠席される旨、ご連絡をいただいておりますので、合わせてご報告申し上げます。

横田会長

本日の会議につきましては、概ね午後7時30分頃を目途に終了したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

議 題

【 (1) 静楽園・留辺薬ふれあいセンター民営化について (報告) 】

横田会長

それでは、次第の『2. 議題』に入ります。

先ほど、自治区長からも説明がありましたけれども、事務局の方から報告案件が2件ありますので、それぞれ説明をしていただきたいと思います。

先ず、「静楽園・留辺薬ふれあいセンター民営化について」ですけれども、9月20日の道新に内容が掲載されておりましたので、ご覧になった方もいるかと思いますが、更に詳しく民営化担当の近井主幹から報告をお願いします。

近井総合支所主幹

「 総合支所主幹 説明 」

質疑・意見

横田会長

それでは、皆さんの方から、説明についてのご意見、ご質問等ありましたら是非お願いします。

荒委員

確か来年2月か3月に、介護報酬と障がいの関係の報酬単価の見直しが決まるはずで、それは、現時点では両方とも下げるだろうと予想されており、そういう面では、特に今、介護事業所が財政的に非常に厳しい状況になっていると。

そういう状況の中で、全国の中では介護事業所の中には倒産している所も現実出てきている訳です。

そして、もう1つの課題は、介護の人材確保の関係ですが、市内の十何か所で介護の懇談会があり、留辺薬でも2か所あったわけですけど、その中で、あるところでは奨学金を出したが人の確保ができなかったとか、また、住む所が問題だろうということで、住む所の確保もしたけどそれでもなかなか上手くいかないという話も聞きました。

そんなことから言えば、本当に介護職員の確保というのは全国的に大変な状況です。

例えば、十勝では、外国の方の確保も考えないと駄目だとか、ある福祉法人ではそういう方向を打ち出したというようなこともあるようです。

今、人材確保というのはなかなか大変なので本当に腰をすえて取り組んでいかないと、行政だけではなかなか難しいのではないかなと率直に思いました。

稲村副会長

市内法人を訪問して聞き取りを行ったと説明がありましたが、施設の数として何か所ぐらい訪問されたのか伺いたい。

それから、そもそもの話ですけど、介護職員が足りないのははっきりしているんですけど、基本的に待遇がよくないと思うんです。この問題が解決しない限りは、人は簡単には集まらないと思うし、そのことについて市としてどのように考えているのかお聞きしたい。

民営化すればいいなんてただ安易に考えているんだったら、とてもじゃないけどそんなことにはならないぞというふうに私は思うんです。

荒委員

介護関係の職員は、非正規の方の割合が非常に占めているわけで、そういうことも含めて抜本的に待遇改善をしていかないとならないと思いますので、今の稲村さんの話に付け加えました。

近井総合支所主幹

稲村委員からのご質問についてですが、市内の社会福祉法人で特別養護老人ホーム等の入所施設のある運営実績のある8法人を訪問させていただき、お話を伺ったところであります。

五十嵐自治区長

待遇の問題ですが、非常に私としては答えにくい部分ですが、国の待遇も悪く平均給与が低いので、今年の介護方針で人件費を上乗せすると言っているんですけどそれでも低いんですね。それに対して市がどうのこうのという立場でないんですけども、実際に非正規が多いということも言われておりますし、そのことはもっともだというしかないですね。

静楽園でいいますとヘルパーさんは皆嘱託職員で、4分の3の勤務になっています。勤務時間的には、大体平均すると1日6時間ぐらいですけど、そうしますと賃金が低いということもありまして、逆に、制度的に仕方がないということなんですが、我々の考えでいくと民営化をして、正職員になっていただいた方がもう少し、賃金も上がってくるのかなと言う感じがしています。

横田会長

行政の立場としては、そういう答えしかできませんね。

稲村副会長

前から言っている4千万円、毎年赤字が出ている訳ですが、4千万円の赤字の原因については、人件費なのかあるいはそれ以外のことなのか、中身について我々は分からないんです。

新聞の報道では、常勤8人、非常勤20人となっている訳で、これ自体が問題だと思うんだけど、住民の福祉というのは市がやるべきことであって、民営化云々以前の問題だと私達は思うんですね。それでないと安心して留辺蘂には住めないと思います。

赤字額の4千万円をどうするかということをお当然検討しておられると思うので、そのあたりを教えていただけたらと思います。

近井総合支所主幹 赤字の解消ということでご質問があったんですけど、静楽園では法改正により、入所しながら介護保険のサービスを受けられることになりましたので、その中で介護保険のサービスに着目しまして、今年2月から介護サービスの見直しをかけましてそれ以降収入増に繋がったところで、今も収入増を維持してやっているところです。

五十嵐自治区長 4千万円という赤字でいきますと、やはり市の職員は給料が高いみたいですが、ご存知のとおり、静楽園にいる職員は高齢化で、どうしても年功序列的な経緯がありますので、給料が高いというのは間違いなく影響していると思います。

ただ、公共でやっていますと何も措置がないんですけど、民間にすると、人件費の一種の交付金みたいなもので、我々が計算をすると1千万円ぐらいが出ると試算しております。また、実際にやっているサービスをこうやれば、介護保険適用になるとかそういう見直しをして、今、収入増を図っています。

そのために人が足りないということがあるんですけども、もっと人が来ればいろいろな収入増になっていくというふうな観測もあります。

支出についても、チップボイラーを入れて燃料費を少し下げたとか、あるいは、今、検討しているのは、電器類をLEDにしようということを考えていまして、光熱水費もどうにか下げていこうということで、試算でいくと若干黒字になるという試算が出ています。

公共でやっていくと先ずそこはできないなと考えているところです。

横田会長 行政側の考え方について、この間の議会でもいろいろ質問した人がいましたが、小手先だけのことでやっても駄目なんです。抜本的にどうするかということで、市長が腹を持ってやらないとだめだと思います。

人件費も30万円を平均20万円ぐらいにして、10万円ぐらい安くすればいいということは分かっているわけだから、これは抜本的にやらないと小手先だけじゃちょっと難しいんじゃないですか。

静楽園に関して言えば、20人が非正規職員で8人が正職員だということですが、1番いいのは非正規職員を正職員にするのが1番いいわけですよ。正職員にすれば直ぐに人は来るんです。

これははっきりしていることだから、だから、もう北見市自体が予算のこともそうなんだけど、やっぱり市長の腹がきちんと固まればいろいろと手立てはできそうな気がします。

このことは、留辺蘂自治区で抱える問題ではなくて保健福祉部がしっかりと受けていかないと、なかなか大変だと思います。

坂口委員 本当に、何のために民営化しなきゃならないのか、ああいう施設は経済効率だけを考えてやれるものでないと思うんです。

例えば、図書館運営みたいなものと同じように、経済効率がどうこうじゃなく、いわゆる行政がしなきゃいけない、民間ではとっててもできないけども、収入と支出

のバランスを考えながら、少子高齢化の中の高齢者達を守っていくという部分では行政がやらなければならない施設だと思うんです。

もっとお金を出してもいいから、先ほど言った正職員にして、もっと働いてもらうことも考えたらいいかなと思います。

何が何でも民営化にしなければならぬということ、もうちょっと根本的に考え直してもらえ、北見の方針がそうだからということだけでも、ああいう施設に関しては考え直してもらうという働きかけだとか、留辺蘂の自治区長としての意見としてあげてもらおうというのもあるんじゃないかなという気がします。

五十嵐自治区長

そもそも論になってしまうんですが、前の行財政計画の推進計画というのを私がつくったんですけど、民間でできることは民間にお願いしようというのは原則でスタートしています。

例えば、常呂の特養ですとかいろいろなことを民営化してきましたんですが、そのことによって、いうならば市の負担といいますか、税負担を軽くしてその分税を外の所に回そうということでその年からやってきたんですけど、静楽園については養護ということで、特別養護老人ホームじゃないというのが赤字の原因の1つだと思うんです。

菊池委員

特養になると、補助金が下りるんですか。

五十嵐自治区長

特養になると介護保険の措置になって、人数も違うんですけど措置される人件費が職員1人あたり倍ぐらいになります。静楽園の場合は、現在、定員が100人なんですが、そのうち40人ほどが特定施設の関係で受け入れることができるんですが、今は20人ぐらいが入っています。これを40人にすると収入が増えるということになり、そういうことで十分民間でやっていけるということがあるんですね。

福祉サービス云々は、行政側として民間がやっている福祉サービスを本当にしっかりとやれているかどうかの監視などを行っているんですが、民間ができるという意味では公共はしなくていいと思っています。

公共しかできないJRはまた別なんですけど、民間で十分やれるというものは民間でやっていただくということがすごくいいと思うんですね。

坂口委員

自治区長が言うようにやっていけるならば、いくらでも候補者はいるはずなんです。でも、候補者がいないということでしょう。それだったら、それは絵に描いた餅でなかなか本当に難しいことじゃないかなと思いますよ。

五十嵐自治区長

今、養護をやっているのは北見老人ホームなんですね。北見老人ホームは養護と特養の両方持っています。大体同じようなシステムになっています。

坂口委員

それでも、常呂では目に見えない形で、第三者機関が利益追求の波に入ってきたら、それぞれ施設に入っていた地元のお店が一切締め出しをくって、地元の経済に

目に見えないマイナス効果というのが大きくてどうしようもなかったと聞いています。

だから、留辺薬の静楽園が民間になる時でも、できるだけ地元はそのあたりを理解した所に名乗りをあげてほしいというのが本音です。

五十嵐自治区長 新しくつくったんです。社会福祉法人ところ福祉会ですか。

坂口委員 地元留辺薬も含めて北見の8法人がなかなか難しい、手を上げられないという状況ならば、じゃあ全く外部の人間にどんなことをしてでも民営化したいんだというなら、そういうことがどんどん表面化していくんでないかなという気がしています。

横田会長 先ほど、3つの理由を説明されましたが受ける法人は多分いないと思います。まして介護報酬の減額改定が目の前にある訳だから、そうなるのかなりきついなという気がしますよね。

荒委員 今の社会福祉法人は法が改正されて社会貢献みたいな、いろいろな人達に対して安価でサービスを云々ということが求められているんですよね。そうすると、社会福祉法人の経営自体が非常に大変になってきているんです。

そういうような状況の中で、無理して、坂口さんが言われた法人が社会福祉法人云々ということ、焦る必要は全くないと思うんですよね。

先ほど、当分の間延期云々という報告があったのは、これはあたり前のことであって、場合によっては、市ですっとやるということを考えてもいいのではないかと考えています。

菊池委員 人件費が高いということでしたが今の職員の体制を考えたときに、給料の安い、若い人達を就けるということは無理なんですか。

五十嵐自治区長 ああいう施設ですので、資格者が必要なんですね。若い資格者がいるかというといないんです。事務職3人、看護師と栄養士、それからケアマネが必要なんです。

野瀬委員 ケアマネは臨時ですよ。

横田会長 職員にしたんです。

野瀬委員 職員にしてしっかりやろうとしたんですよ。

近井総合支所主幹 実際に、園長を除いて事務員が2人、栄養士が1人、看護師が1人、ケアマネが1人、介護職員で2人です。

野瀬委員 再任用で常勤になるんですか。

近井総合支所主幹 常勤です。園長を入れると8名になります。

横田会長 1人600万円ぐらいだとしたら、4,000万円超えますね。

菊池委員 老人ホームとして単独の決算ですか。

五十嵐自治区長 一般会計の決算です。言うならば、支出だとか収入を見ると黒字なんですけど、実際、人件費は給与費となっていて職員給与費でまとまっています。そこから抜いていくと赤字ということです。

菊池委員 資格の問題だけど、市として今後のために静楽園で働くうえで、若い人に資格を取らせるようなことはできないんですか。

横田会長 行政でやるわけにいかないですから。

五十嵐自治区長 将来的には民営化を目指しているのでそういう話にはならないですね。

坂口委員 ほとんどケアマネの資格を持っているでしょう。

横田会長 持っていないと思います。

坂口委員 合併直前の留辺薬はほとんど皆持っていたと思います。

横田会長 社会人枠で採用して、資格のあるものを採用するという形でずっと今までやったんです。
だからこういうふうになるんです。

菊池委員 赤字を解消するために何ができると思いますか。

近井総合支所主幹 これまで、歳出を如何に削減というか節約していくかということを考えていたんですけども、ちょっと逆に考えて、収入を上げることができないのかということに方向付けをさせてもらって、先ほど言いましたけども、静楽園にしながら介護保険のサービスを受けられるよう、そちらの方の見直しを行いまして今年の2月から収入増に繋がっているところです。

菊池委員 そうすると、また上げたなら上げたなりに高くなるから赤字額が増えていくということですか。

近井総合支所主幹 違います。その分、収入が多くなりますので赤字幅が縮小できるということです。

五十嵐自治区長 先ほども言いましたように特定という施設ですから、今回40人まで受けることができるんですが、今、半分の20人しか受けていないんです。それを40人まで広げることができるんです。

野瀬委員 要介護者は何人いるんですか。

近井総合支所主幹 介護利用者は9月1日現在で24名が利用しています。

野瀬委員 特定だから要介護1だろうと2だろうと使えますよね。

近井総合支所主幹 使えます。要介護4から要介護1までそれぞれいらっしゃいます。

野瀬委員 要介護1の人で使っている人はいるんですか。

近井総合支所主幹 います。

野瀬委員 今、頑張って介護保険の収入を上げていますよね。それによって一般の方のところのサービスが低下しているとか、そういうことはないんですか。

近井総合支所主幹 サービスが低下するということはないです。

菊池委員 食事はどこが提供しているんですか。

横田会長 人材会社から料理人さんは派遣されてきています。

近井総合支所主幹 調理については委託していて、材料については市の方で直接購入しています。地元から購入しています。

菊池委員 赤字をどうしていくかということはこれからの静楽園の課題の1つだと思うんですけど、もう抜本的に改革しないとどうしようもないんです。

稲村副会長 黒字でやっているところは沢山あるんだから、そこがどうやっているか聞けばいいんです。具体的に。

菊池委員 北見の中で赤字は留辺薬だけなんですか。

坂口委員 養護は留辺薬しかないですから。

五十嵐自治区長 北見に老人ホームがありますけどあそこは更に同じ数、特別養護老人ホームを持っていますから、それとこれを一緒にしてプール計算をして黒字になっていくということです。

先ほど言いましたように、40人の定員のところに介護の高い人がいると収入も増えるんですけど人も必要になるんですね。

野瀬委員 北見と留辺蘂の違いは、職員が集まるか集まらないかだと思うんですね。

横田会長 この3つの理由が出ると、先ほど言ったようになかなか大変なんです。

近井総合支所主幹 参考までに、北見の養護老人ホームについては、実際に黒字ということでお伺いしています。

横田会長 そういところを研究してどうやっているかを報告してくればいいんです。

五十嵐自治区長 ああいう建物でもありまして光熱水費がすごくかかるんです。

古川委員 あの広い廊下を見てビックリしますよね。あれは光熱費が無駄な部分がすごくあるなと思いました。

横田会長 もう一度、今の黒字のところも含めて研究してもらって、それをまた報告してもらってまた皆さんで話し合いをするということしかないですね。
そういうことで先に進めさせてください。

議 題

【 (2) 大規模林道に関する被害状況について(報告) 】

横田会長 続きまして、「大規模林道に関する被害状況について」、産業課長から報告をお願いします。

鎌田産業課長

「 産業課長 報告 」

質疑・意見

横田会長 それでは、今、産業課長から報告がありました。それについて、ご意見、ご質問等をお願いします。

稲村副会長 被害状況位置図の真ん中に施工中と書いてあるんですけど、これは前のときのですか。

鎌田産業課長 前段で90mほど道路が無くなったというふうに説明しましたが、これは28

年度に公共災害といって、国の災害査定を受けて工期が9月いっぱいでもうそろそろ終わるんですけど、ここが復旧して先の方に行けたので、今の被害か所が分かったという状況です。

飯塚総合支所長 去年の台風で被害を受けて直しています。

稲村副会長 6年前ですねがけ崩れで通行止めになったのは。それからずっと通れないんですよ。

五十嵐自治区長 それは直しています。

稲村副会長 入り口に通行できませんと立て札が立っているんです。

五十嵐自治区長 通り抜けできませんではないですか。

稲村副会長 たまたま私は釣りをやってあの川に行くものだから状況は分かっているんですが、北海道として、この大規模林道を将来含めてどう考えているのか分かりますか。それと、工事をあんなに長い間やらずに通り抜けさせなかったということは、それほど考えていない、無くてもいいぐらいだろうと思うんです。

だとしたら、無理してお金をかけて直す必要はないのではないかと思います。ただ、登山道の入り口が側にあるから、丸瀬布側から入って登山口の所まで通行止めにすればいいのではないかと思います。両方の道を繋ぐ道路にしたいんだという話も聞きますがどうでしょうか。

鎌田産業課長 大規模林道の計画としましては、丸瀬布から白滝に行く区間と丸瀬布から留辺蘂という2区間があり、また、もう1区間、滝の湯と白滝区間を結ぶ区間があります。事業的には、昭和48年からこの事業が始まっていますが、平成20年までみどり資源機構が当初この事業をやっていたんですが、ここから北海道に事業主体が移っています。

留辺蘂と丸瀬布の区間につきましては、20.5km あるんですけど、この区間については、昭和57年から平成8年まで事業をやってしまして、平成8年に完了しています。

丸瀬布から白滝の区間にトンネル部分があるんですけど、事業効果が上がらないということで北海道が事業中止をしまして、この未改良の部分が残ってしまっている状態です。

このため、丸瀬布から6km までは道路改良が終わって舗装になっているんですけど、その先トンネルがないものですから、道路としては機能していないんです。

今回留辺蘂から丸瀬布行ってどこに接続になるかということ、道路の上武利・丸瀬布線という道々、今工事をやっている区間なんですけどここに接続されて、最終的には丸瀬布に行くんですけど、いこいの森だとかがある所に抜けていくという状況で

す。

今年、工事を実施しないというのは丸瀬布側も同じような被害を受けておりまして、道々も通行止めの状況です。道々の状況も確認すると落石だとかナキウサギの生息地の区間がありまして、その対応で事業が相当遅れている状況です。

北海道にも完成の目途を確認したんですが、ちょっと目途がたたないと言われ、なおかつ丸瀬布側の林道についても災害被災を受けている状況で、今回、丸瀬布側の5km部分の5か所を復旧しても、その先で通行止めになるので丸瀬布と歩調を合わせて、国との協議を進めて行きましょうというのが工事をやらない理由です。

荒委員

そもそも大規模林道をつくるときに、かなりいろいろ議論になったということがあったと思うんです。その議論の中身についてはとやかく言う気はないんですが、やはりそういう面で無理をしてやってきたことのある面ではツケが出たと思います。

先ほど稲村さんが言われたけど武利岳の登山道ぐらいは確保して、あとは無理してやるのが本当に必要なのかどうかと思いますので、先ほど工事をしないという、私はそういうことにしかないだろうなと思います。かけたお金はかなり無駄になっているとは思いますが。

鎌田産業課長

今、武利岳の登山道のお話が出ましたが、登山道の状況も確認しております。網走中部森林管理署で話を聞いたんですけど、登山道も今回の災害で道路が消失している部分が沢山あるようです。

復旧の予定については、利用者が少ないので早急な復旧はないというふうに聞いております。黒岳ぐらい利用があれば何とかできるという話はお聞きました。

稲村副会長

こういう問題は、ここだけでなく全国各地であるんだと思うんです。いわゆるバブル時代のツケなんです。やっぱりこれを直すといったらお金がかかるし、思い切って止めたと市から言うぐらいのことをした方がいいと思います。

現実に10年近く通れない状態になっているんだから、無駄というよりないですね。

ただ、雨が降ったときの状況は分かっているので、それはそれなりの対策はしなきゃならないけど、きちっと維持するなんていう必要はないと思うんです。そういうことを止めるという、そのことも必要でないかなと思うんですけどね。

菊池委員

確かに、経済効果はないですよ。

稲村副会長

大規模林道だって林業上でどうなんですか。なかったら困るとかあるんですか。

横田会長

これは道との関係もありますから、ここについてはその都度言っていくことも出て来るとは思いますけども、行政の方できちんと処理をしていただかないと、我々がここで結論を出すことにはなりませんので、そんなことでよろしく願います。

横田会長

それでは、時間も押しておりますが、続きまして、「留辺蘂自治区内事業の今後のあり方について」協議を進めてまいります。

このことについては、前回と前々回の協議会で関係事業について担当課長等から説明を受け協議してきた訳であります。

その後、皆さん方にご了解を得て運営委員会を開催して答申書の作成方針について協議をさせていただいて、協議内容を踏まえて答申書（未定稿）を事務局において作成をして皆さんの方のお手元にお送りしております。

運営委員会については、立垣委員を除いて5人の運営委員の皆さんで話をさせていただきました。それぞれこれからの関係について、皆さん方から留辺蘂まちづくりのためにどうあるべきだということを含めて出していただいて、それを私の方で取りまとめをしてこの案文をつくったということになっておりますけども、これについて今、説明をしていただいておりますがかなり今までの答申とは趣きが違います。

従って、これ等については説明の後、皆さん方からご意見があれば私の方でもお答えをしたいなと思っております。

それでは、事務局から資料の説明をしてください。

事務局
（地域振興係長）

初めに、本日お持ちいただいた資料ですが、答申書（未定稿）ということでお送りしておりました。今日ご審議いただくにあたって案として取り扱いさせていただきますので、表紙につきまして、答申書（案）という1枚ものをお配りしておりますので、そちらに差し替えていただくということをお願いしたいと思います。

それでは、お手元の答申書（案）に基づいてご説明いたします。

まず、答申書のフレームについてですが、前回のまちづくり協議会において今までの形を踏襲することをご了承いただいているところです。

それでは、1ページをご覧いただきたいと思います。まず、「答申にあたって」とありますが、内容については留辺蘂自治区の現状ということで人口減少並びに高齢化率の上昇、この課題に重点を置いた内容としております。

なお、人口減少問題については、グラフを使って市長や他の自治区の方々と共通の課題として強く認識していただくという意味で掲載をさせていただいております。

次に、2ページをご覧いただきたいと思います。こちらは、今までの協議内容に基づき全部で10本の課題を掲載させていただいております。

次に、3ページをご覧ください。この3ページから7ページまでにつきましては、総合計画の基本目標に基づきまして、第10次実施計画の新規要望事業と各担当課と協議の上、臨時費要求予定事業、こちらを一部最優先事業という形で掲載をさせていただいております。

各事業の概要説明につきましては、前回、前々回の協議会にて説明をさせていただいておりますので省略させていただきたいと思っております。

それから、今回載せておりませんが例年資料写真をいくつか掲載しております。こちらにつきましても、次回の最終案の段階ではお示しできると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

次に、8ページをご覧ください。こちらの8ページは「むすび」としてありますが、こちらの内容につきましては、留辺蘂自治区における課題解決に対する方向性ですとかあとは地域からの要望、それから期待する施策等について、こちらは今までの協議内容に基づいて作成させていただいているところです。

次に、10ページをご覧ください。こちらの10ページには、諮問を受けてからの協議経過ということで、こちら日時と内容も含めて掲載をさせていただいております。

続いて、11ページをご覧ください。こちら11ページから13ページにつきましては、第10次実施計画に新規要望する事業と採択済みの継続事業、それから臨時費要求予定事業のすべてを掲載させていただいております。こちらは全て全部で75事業となっております。

最後になりますが、14ページ、こちらに例年どおり、協議会の委員名簿という形で掲載をする予定でおります。

以上で、答申書案の説明につきましては、以上とさせていただきますのでご審議のほどをよろしくお願ひいたします。

横田会長

今、事務局の方から答申書（案）ということで説明を受けました。

更に詳しく申し上げますと1ページ、2ページについては、今までと違ひまして留辺蘂の現状分析を、「答申にあたって」の前段に掲載しております。

これについては、坂口さんから出された資料も含めて網羅させていただいております。

3ページ以降基本目標1から6については、前回もいろいろと皆さん方と議論をさせていただきました内容を基にして、事業全体に欠点や欠陥、あるいは齟齬がない限り行政から出された議論については、概ね了として承認をしたということですので、ここについては、大きく触れる必要性はないだろうということでこの分は載せてございます。

8ページ以降の「むすび」についてですけれども、現在と5年、10年、20年後を見据えて、今後、留辺蘂自治区としてどのようにまちづくりを進めていけば良いかということを含めてここに載せてございます。

字句、修正等もあると思ひますが、まだまだ沢山載せたいことがあります。そこについては、市長に答申をする10月10日のときにでも、口頭でも意見として申し上げたいなというふうに思ひますので、そこを含めて皆さんのところでご意見等をいただきたいと思います。

菊池委員

これだけ事業が沢山あって確実にできるものというのは、どれくらいあるのです

横田会長 だからサテライトは無理なんですよ。

野瀬委員 社協だって北見に戻れば加算はとれていないでしょう。

横田会長 だからサテライトにしているんです。

野瀬委員 それでないととれないからですね。問題はそこなんですよ。

横田会長 今回の2点については、そのとおりなんだけど、具体的に目標にシルバーハウジングは入れて欲しいということですね。

坂口委員 これだけ高齢化率が高いんだから、実験的に5軒でも10軒でもいいからやってほしいと思います。
安心して住める公営住宅なり住宅があるよというところを見せなかったら、本当に不安がって、息子や娘の言うことを聞いて今のうちに札幌に行かなきゃどうしようもないから行くわというのがあまりにも増えすぎているから、これが加速的に延びないように何か形を見せた方がいいんでないかなという気がします。

横田会長 基本的には、事業としてソフト事業になるのかハード事業になるのか分からないけど、何れにしても1項目載せておくということは必要かもしれません。
シルバーハウジングについては、北見もそのとおりやっているわけだから、そういう意味では留辺蘂はやりようがあるんです。

稲村副会長 このくくりとしては、基本目標ならどこに入るんですか。

五十嵐自治区長 住宅なのか福祉なのか、多分両方だと思うんですけど、都市建設部と保健福祉部と一緒に協議をしてやるしかないと思うんですよ。

横田会長 つくるときにもう一度協議します。28日にまた協議会があるのでそのときまでに整理します。

五十嵐自治区長 旧北見市でやっていますから、そのときに位置付けがどこだったか聞いておけばいいと思います。

横田会長 1回載せておくということは必要です。

荒委員 先ほど、坂口さんがおっしゃられたように留辺蘂を区域から外すという地域外については、これは是非やめてもらわなかったら困ります。

坂口委員 きちっと書いておけば文句は言えないと思うけどね。

荒委員

項目には書いてあるんだけどどこまでやれるかというのは書いてないから、やっぱり区域外というのは、撤廃するようなことを考えてもらわないと困ります。

坂口委員

ただ、民間事業所だから採算が合わないと言われたらそれまでで、それなら、北見市が国に働きかけて地域加算でもとれるようにするとか、そういう動きの中でやらなければなかなか言うことも聞いてくれないと思います。

だけど、そこを何とか保健福祉部長あたりに頭を下げてもらいながらやるしかないのではないかと思います。

ケアマネージャーがサービス計画を立てるのに、本当に立てにくくなっていると思います。介護タクシーに、留辺蘂はサービス外なので行けませんよと言われるようでは困る。

だから、何とか北海道一、全国一広い広域行政区だからそのあたりを特例で認めてもらって、無駄なことをさせるのではなく、留辺蘂でもお金になるんだよということで、サービス区域を広げてもらうような行動を是非とってもらいたいと思います。

荒委員

そうしないと、本当に住めないというような現実があるので是非お願いしたい。

それと、総合計画が来年度で終わりですよ。これの計画の41ページに留辺蘂自治区の今後の重点施策ということが書いてあるので、それとの関係を含めて、この間は運営委員会で現状などから、こういうことが必要でないかという話を主に行いましたが、計画との整合性はどうなんだろうと見てみました。

1つは、重点施策には全部で3つほどあるんですが、カラマツ材の加工、農業の関係と林業の関係とかいろいろ書いてあるんですが、その中に農業振興を図るため農業基盤の整備や、農業産地である白花豆をはじめとする多様な農産物の生産性の向上を図りますと書いてあるんですよ。

だけど、現実、マルシェでもやっていたけど、白花がパワー支援のときも議論になったけど、なかなか作付けが増えていないという、労力もかかるし大変だということが話されたと思います。

現実には減っているわけで、そういう関係からいって重点施策を十分やられているのかどうかということがすごく疑問を感じましたので、そういう面をどう考えたらいいのかなということを思っています。

それから、カラマツ材の高次加工をそこでやっているいろいろな形で、公共的な建物で使われていたりそういう面では頑張れているなと思うんですが、森林資源をいかした木質バイオマスエネルギーの促進云々と書いてあるんですけど、たまたま広報を見たらまた募集をかけているんですよ。

確か、ペレットストーブが5件でポイラーが1件でしたか、そういう募集でした。なかなか希望が少なくて2次募集をかけているという状況なんで、そういう事態でいいのかなということが気になっているので、そのあたりのことをどうしたらいいんだろうかと思いました。

それから、2つ目は山の水族館がリニューアルして、この間もマルシェのときも含めて見てきたんですが、イベントとかいろいろなことをやって観光客が増えているのは事実なんですが、私が1番引っかけているのは、山の水族館の観光客を温泉街でもてなす方策や、周辺の観光スポットと連携した取り組みなど点から線、さらに面的な観光の展開を進めていきますということが、本当にどうなんだということをすごく疑問に思っていて足りないのではないかと思います。

来る人は、一定程度リニューアルで若干盛り返しているとは思いますが、本当にそういう面でのことをどう考えていったらいいのかと思っています。

それから、先ほど坂口さんが言われたことに係わると思いますが、高齢者の3番目に地域コミュニティ云々ということで、「安心、安全なまちづくりの関係で、高齢者の居住環境の整備を図り、高齢者が住み慣れた地域で安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていきます」、もう1つは、「通院、買い物困難者の解消に向けた交通対策の検討を進めていきます。」と書いてあるんですけど、確かにバスを瑞穂とか厚和、滝の湯からはスクールバスに乗れるとかそういう方向は見えてはきていますが、本当にそれだけでいいのかと思います。

菊池委員 観光客のカウントはどこでやっているんですか。

事務局 道の駅のトイレにカウンターがあってそれでカウントをしていると思います。
(総合支所長)

五十嵐自治区長 宿泊客はホテルでやっていただいておりますけど。

菊池委員 私はアルバイトに行っているから分かるんですけど、去年よりは大分お客さんが増えていて特に外国人がすごく多くなりました。アメリカ、ハワイ、台湾、シンガポール、香港からの方が結構多いです。

来るお客さん達は、最近はバスでなくほとんどがレンタカーですね。前にも1回話したけど、英語で何かできないだろうかと言ったら無理だと言われたんですけど、何を売っているかということが直ぐに分かるようなガイドブックがあればいいと思います。

横田会長 それは、観光協会に言ってもらえれば1番いいですね。

横田会長 総合計画で回答するものはありますか。

菊池委員 それから、この前の会議の時に豊金と旭公園と上町団地、3つある団地を何とかしないといけないと言ったんですけど、それはどう考えているんですか。

荒委員 豊金は今募集していないんじゃないですか。

- 五十嵐自治区長 豊金は常時募集しています。
- 稲村副会長 今使えるやつを潰すということにはならないんです。だから、前から言っているように3年や5年じゃだめなんですよと、住宅政策は1回建てたら、40年、50年のスパンだから、それを見越して計画を立てなければならないんです。
需要があるかどうか分からないけど、勿論、空かせておけばコストがかかるんだから壊した方がいいのかもしれない。
- 菊池委員 3つある団地をずっと残しておいたら維持費がかかってくるわけだから、3つを2つにするとか考えてやっていかなかったら経費がかかってしょうがない。
- 横田会長 それは、市長に申し上げておきます。
- 五十嵐自治区長 旭公園の団地は来年から協議が始まります。再来年設計ですから、来年は皆さんの中で協議をしてもらえればと思います。
100戸あるうち24戸が来てあと76戸を向こうでやりますから、実際に入っている入居率というのは75%ということで、それじゃあ全部建て直す必要があるのかそういう議論を皆さんにお諮りしたいと思います。
- 横田会長 まち協は継続して協議していきますが、荒委員の関係は答えられるものではないと思いますが、基本的には考え方は分かります。
- 五十嵐自治区長 交通体系の問題はまだはっきりしていませんが、こういうことが必要だということていくと6番目に今回表現をさせていただいて取り掛かるということでここに載っています。
その他に、観光の面とかカラマツ材の利用、バイオマスとかの関係は来るかどうかでなくて、来てもらおうということでバイオマスのペレットボイラーの募集とかをしています。
こういった補助金を出して機会をつくるという部分は、行政はそういうことをするところだと思うんですよ。ところが今までは相当来ていて、今年はたまたま来ていないようですけど、募集の時期が悪いなどと言われていきます。春だと、前の年に家を建てていますから新築じゃないので、本当は秋の方がいいんじゃないかとかいろいろ意見があります。
- 荒委員 広報を見たら再募集していましたからね。
- 五十嵐自治区長 こういうことは、市が率先してこうですよとかいろいろPRをやるんですけど、ペレットを使ったらこうですよとかホームページに出ていると思うんですけど、ただやはり使う側の問題だと思います。

横田会長 皆様のご意見は分かりました。入れるものは入れて、継続するものは継続するということにしたいと思います。

高野委員 答申にあたって1ページの昭和35年から10年後の平成40年の推計を示していますが、端野は2分の1、常呂は3分の1、留辺薬が4分の1と厳しい現実ですね。

横田会長 これをどうするかです。まち協の皆さん方にお願いをするというのはおかしいけど、前から言っているように社会減、自然減を防ぐ手立てを皆で考えないと、31年で5,900人台と言われているわけだから、そうすると、これまた大変な話になってくるんでないかなと思うんですよ。

だから、できるだけ人を減らさない方策を、まち協の皆さんは代表で出てきているのでそういうことを含めて、これからまちづくりに引き出していかないと大変だと思いますね。

五十嵐自治区長 そのあたりは、取り組むべき地域課題の2番目と3番目に書かれてあります。

古川委員 この人口減少を見て、先ほどの団地じゃないけど必要性があるかないかはっきり分かるんじゃないですか。イコールですよ。この数字を見て判断を直ぐできると思うんですよ。

五十嵐自治区長 坂口さんが、独り住まいの高齢者の方は団地に住んだ方が安心だと言われましたが、それは家を売るか何かしなきゃならないんですけど、そういうことを考えていたら、シルバーハウジングとかそこまではいらないけどある程度必要だよということもありますね。

坂口委員 日本は持ち家制度でヨーロッパ地方は借家制度ですが、そこに補助金を出して持ち家は止めましょうということをしていて、20年前に東京武蔵野市が、今住んでいる家を銀行が受けてということをしたみたいですけど、20年で100軒もないように財産価値がなかったら銀行も受けないみたいです。

北海道では、道銀も北洋もやっているんですけど、実際に家主が亡くなった後、銀行は処分費だけ払うからそれだけ価値がなかったら対応しないので、だから、基本的に自分の家を持っているのが一番大事だという考えを変えなきゃならないと思います。今までぐらいの規模を常に維持しなきゃならないということではないけど、そういう状態に添った形の公営住宅の建設が必要かなという気はしますよね。

留辺薬町時代につくった中心市街地活性化の中には、光星苑の向こう、栄町の営林署の土地と東町が公営住宅の候補地だったんです。それが合併とともに自然消滅してしまったようなんですが、やっとな東町は公園団地の建て替え地域として陽の目を見たんですけど、そういう意味では、栄町のところは小野寺医院も近いシラルズもあるし、ちょっと工夫したら旭中央の駅の南側の下でも人間が通れるような工夫

をすればコンパクトなまちになるのではと思います。

まちの中心が大きく空いているのが留辺蘂自治区だから、航空写真で見たらよく分かります。

だから、そういう計画を是非検討して欲しいなと思います。

千田委員

静楽園の関係ですが、地元の食品の納入業者さんが、これが民間経営になると自分達が外されるということで廃業の意識も持っていらっしゃるので、是非そのへんは民営化されるにしてもそういったものは何等かの形で引き継いでいただければと思います。

それから、私は豊金に住んでいるんですけど豊金団地は見事に空いています。先日、農業者の方から相談を受けたんですけど、農業実習生とか農業体験生とかを受けるときに、短期的に住む所がなくて困るという相談を受けまして、たまたま石井理容院さんが経営しているアパートに頼み込んで、1日いくらという形で貸してもらったんですけど、柔軟な活用ができないのかなと思いました。

また、エポックハウスがかなり空いています。これは民営圧迫かもしれませんが、家賃は例えば4か月タダとか5か月タダとか、そういった思い切った特典を付けないと、なかなか若い方で留辺蘂に住もうと思わないんじゃないかなと思いました。

横田会長

時間も大分経過しております。

答申書については、皆様のご意見を伺いながらあらためて作成しますが、この後、事務局の方に任せます。そのまとめたものをさらに正副会長で内容を確認させていただいて、次回の協議会のときに最終案として皆さん方にお示しをさせていただければいいかなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

もし、その中で、さらに漏れているということがあれば、市長に答申の際に私の方から口頭でも申し入れはできますので、そういうことでよろしくお願ひをしたいと思います。

その他

横田会長

本日の議題につきましては、すべて終了しました。皆さんの方からその他ありますか。

野瀬委員

その他で言っているのかわからないんですが、今回の台風のときにJRが早々に止まりました。それからいくと、是非、高速バスを留辺蘂に止められるように提案してほしいんです。

石田委員

北見、札幌間が止まらないんです。旭川は止まるんですが。

野瀬委員

結局、病院に通う人とかがいたりして必要なんじゃないかと思うんです。JRを

残したいのはヤマヤマですけど、でも、2本立てでいかないと今のJRは冬になったら特に直ぐ止まりますからね。

菊池委員 北見の手前で1か所停まるのでそれを留辺蘂に止まらないかと言ったら、高速バスの関係でそういう話ではないということでした。

稲村副会長 何か理由があるんでしょう。それはそれとしてお願いできることはないのかということですか。

荒委員 大事な要望ですよ。声は地域にあります。

五十嵐自治区長 高速バスの要望関係は、商工観光部長が中心になって実は26年にやっているんです。それともう1つは、温根湯に行く便で10時頃着くバスを1つ延長してやってくれという要望をしまして、それはやっていただいたんです。

ドリーミントオホーツク号についてはできませんという回答でした。何故かという重複路線ですということですね。留辺蘂まで路線バスが入っていますし、それから旭川線も入っている。それをさらに札幌線を重複するわけにはいかないということでした。

どうにか乗るだけにしてくれないかと言ったんですけどだめでした。降りるだけでもいいですという話をしたんですけど、高速バスなので止まるのをなるべく少なくするということができた。

野瀬委員 実は、留辺蘂から北見に行ってまた戻ってくる時間を考えるのであれば、料金的とかそういうことも考えると遠軽に行った方がいいんですよ。

だから、私は何度も遠軽を利用しているんですが、車も置いていけるし料金もすごく安いということ、JRもそうですが高速バスも安いんです。

五十嵐自治区長 理由があるんです。

札幌北見間は305kmぐらいですが、300kmをさかいにして特急料金が全然違うんです。だから北見は高い状況です。

坂口委員 若い子達は、遠軽から札幌間を利用している人が多いです。

野瀬委員 駅ネットも便利なんですけど、駅ネットで買ってもインターネットで買っても結局は北見に取りに行かなきゃいけない。

だから、全然時代にそぐわないんですよ。

坂口委員 去年、JRが1か月台風で止まった時に、おばあちゃん達が仕方なしにバスに乗ったけどトイレが不便で2度と乗りたくない。だから、汽車が何とかなくならないように一生懸命に利用すると言っていました。

